

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国10年9月、東京10年10月) ～たばこ、傷害保険料の値上げなどから東京(10月)の下落率が大幅に縮小

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI の下落率は前月から 0.1 ポイント拡大

総務省が10月29日に公表した消費者物価指数によると、9月の消費者物価(全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI)は前年比▲1.1%となり、下落率は前月から0.1ポイント拡大した。事前の市場予想(ロイター集計:▲1.0%、当社予想は▲1.1%)を下回る結果であった。

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合は前年比▲1.5%(8月:同▲1.5%)、総合は前年比▲0.6%(8月:同▲0.9%)となった。

消費者物価指数の推移

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
09年 4月	▲0.1	▲0.1	▲0.4	▲0.1	0.0	▲0.6
5月	▲1.1	▲1.1	▲0.5	▲0.8	▲0.7	▲0.9
6月	▲1.8	▲1.7	▲0.7	▲1.5	▲1.3	▲1.0
7月	▲2.2	▲2.2	▲0.9	▲1.8	▲1.7	▲1.1
8月	▲2.2	▲2.4	▲0.9	▲1.7	▲1.9	▲1.1
9月	▲2.2	▲2.3	▲1.0	▲2.1	▲2.1	▲1.4
10月	▲2.5	▲2.2	▲1.1	▲2.4	▲2.2	▲1.4
11月	▲1.9	▲1.7	▲1.0	▲2.2	▲1.9	▲1.3
12月	▲1.7	▲1.3	▲1.2	▲2.2	▲1.9	▲1.5
10年 1月	▲1.3	▲1.3	▲1.2	▲2.1	▲2.0	▲1.4
2月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.8	▲1.8	▲1.3
3月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.7	▲1.8	▲1.2
4月	▲1.2	▲1.5	▲1.6	▲1.5	▲1.9	▲1.4
5月	▲0.9	▲1.2	▲1.6	▲1.4	▲1.5	▲1.4
6月	▲0.7	▲1.0	▲1.5	▲1.0	▲1.3	▲1.4
7月	▲0.9	▲1.1	▲1.5	▲1.2	▲1.3	▲1.4
8月	▲0.9	▲1.0	▲1.5	▲1.0	▲1.1	▲1.4
9月	▲0.6	▲1.1	▲1.5	▲0.6	▲1.0	▲1.3
10月	—	—	—	0.3	▲0.5	▲0.6

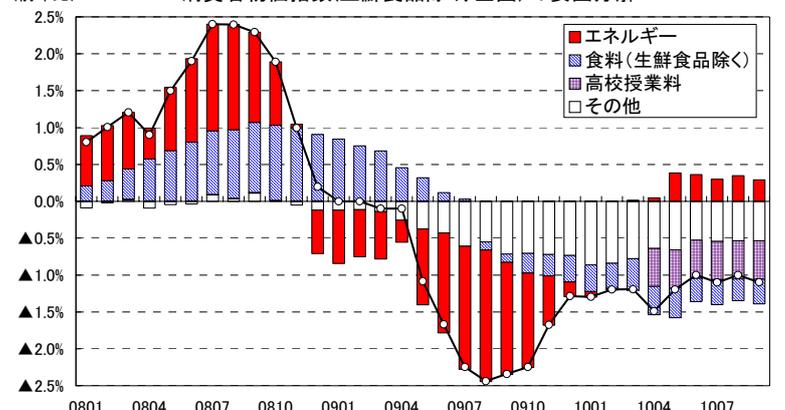
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳を見ると、電気代(8月:前年比1.3%→9月:同2.8%)、ガス代(8月:前年比2.5%→9月:同3.6%)の上昇幅が拡大したが、ガソリン(8月:前年比6.4%→9月:同2.3%)、灯油(8月:前年比17.4%→9月:同13.3%)の上昇幅が縮小したため、エネルギー全体の上昇率は8月の前年比4.3%から同3.7%へと若干縮小した。

食料品(生鮮食品を除く)は前年比▲1.4%(8月:同▲1.3%)と14ヵ月連続で下落し、下落幅は前月よりも若干拡大した。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.29%(8月は0.34%)、食料品(生鮮食品を除く)が▲0.34%(8月は▲0.29%)、高校授業料が▲0.52%、その他が▲0.54%(8月は▲0.54%)であった。

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解

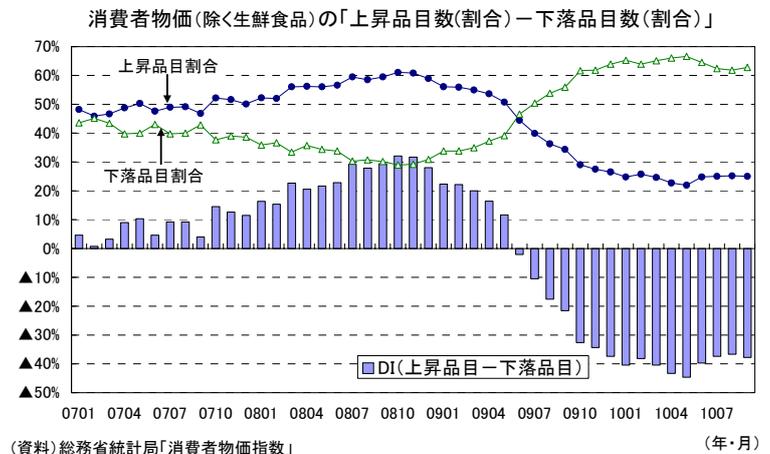


(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

(年・月)

2. 物価下落品目数が4ヵ月ぶりに増加

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、9 月の上昇品目数は 131 品目（8 月は 132 品目）、下落品目数は 329 品目（8 月は 324 品目）となり、下落品目数は 4 ヵ月ぶりに増加に転じた。上昇品目数の割合は 25.0%（8 月は 25.2%）、下落品目数の割合は 62.8%（8 月は 61.8%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲37.8%（8 月は▲36.6%）となり、4 ヵ月ぶりにマイナス幅が拡大した。



3. たばこ値上げが東京都区部のコア CPI を 0.2%押し上げ

10 月の東京都区部のコア CPI は前年比▲0.5%となり、下落率は前月から 0.5 ポイント縮小した。事前の市場予想（ロイター集計：▲0.8%、当社予想も▲0.8%）を大きく上回る結果であった。

10 月からの増税に伴いたばこが大幅に値上げされたが、CPI のたばこは前年比 38.6%の大幅上昇となり、コア CPI を 0.21%押し上げた。また、被服及び履物が前年比 0.7%（9 月：同▲0.4%）と 2 年 8 ヵ月ぶりに上昇に転じたこと、傷害保険料が値上げされたこと（9 月：前年比 0.0%→10 月：同 11.8%）などが、コア CPI の押し上げ要因となった。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.28%（9 月は 0.26%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.26%（9 月は▲0.34%）、高校授業料が▲0.38%、たばこが 0.21%、その他が▲0.36%（9 月は▲0.54%）であった。

総合指数は前年比 0.3%（9 月：同▲0.6%）と 2 年 7 ヵ月ぶりに上昇に転じた。猛暑の影響で生鮮食品が前年比 20.5%と高騰したことがその主因であるが、野菜、果物などの価格はすでに落ち着きを見せ始めており、上昇は一時的なものにとどまるだろう。

東京都区部のコア CPI の下落率は前月から大きく縮小したが、たばこ、保険料の値上げなど一時的なものによる部分が大きく、物価の基調的な動きにはそれほど大きな変化が見られない。先行きについては、景気がこのところ弱含んでいること、円高の影響が消費者物価に徐々に波及することなどから、下落率の縮小傾向がこのまま継続する可能性は低いと考えられる。

なお、全国はたばこのウェイトが東京よりも若干高く（全国：63/10000、東京 48/10000）、たばこ値上げの影響が若干強く出るため、10 月の全国コア CPI はたばこ値上げにより 0.3%程度押し上げられることが見込まれる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。